

かまクロ

鎌ケ谷クロスフィールド

発行：鎌ケ谷市民活動推進センター 発行月：令和2年7月 No45

かまクロとは？！

鎌ケ谷市は4つの鉄道路線が乗り入れ、交差する「人と文化の交流拠点」として日々発展を続けるまちであり、自治会、市民公益活動団体、企業、行政など鎌ケ谷にある様々な組織が、その垣根を越えて“縁”を「クロス」- 交差 - するという思いを込めています。



ー 次期「市民との協働戦略プラン」ワークショップ ー

市では、新たな「市民との協働戦略プラン」の策定にあたり、昨年11月から今年2月にかけて市内で活動する市民公益活動団体を対象としたワークショップを実施しました。ワークショップでは、次期プランにおける団体支援策について考えていただき、現状の課題や理想の姿、施策の優先順位などを話し合いました。この結果を参考にプランの検討を進めていきます。

Contents

- ◆表紙 次期「市民との協働戦略プラン」ワークショップ・・・・・・・・・・・・・・・・P1
- ◆プロジェクトマネージャーコラム“弱いつながら”の価値・・・・・・・・・・・・P2・P3
- ◆地域づくりコーディネーターについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P4



“弱いつながり”の価値

ウィズコロナ時代の つながり方

新型コロナウイルス感染症（以降「コロナ」と表記）が猛威をふるい続けている昨今ですが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？残念ながら予定していた活動を断念せざるを得なかったり、活動休止を余儀なくされている団体の皆さんも多いのではないのでしょうか？

今回は、少しずつ見えてきたウィズコロナ時代のコナにつながりについて書いてみたいと思います。

皆さん、コロナの前は対面を前提に活動を組まれていた方が多かったのではないのでしょうか？リアルに人と会いながら関係性を構築していくことこそ市民公益活動の真骨頂だと私自身も強く信じていたのですが、それがコロナによって状況は一変。むしろ人との物理的な距離を取らねばならず、つながりを分断されてしまったようにも感じました。そこに台頭してきたのが“オンライン”です。もともとコロナ前にも活用は進んでいていましたが、この機会に急速に普及してきたこの“オンライン”に対しては、苦手意識を持つ方や、リアルを大切にしてきた方にとっては違和感を持つ方もいるのではと思いますが、この機にこの“オンライン”というものが一体こういった使い方ができ、何を生み出せるのか？少し触れてみたいと思います。

そもそも“オンライン”の言葉の定義は“インターネットにつながっていること”、そして“インターネット”とは“世界中のコンピューターなどの情報機器を接続するネットワーク”のことです。つまりは“オンライン”とは“コンピューターを介して、世界中の人々とつながっている状態”であるといえます。

そうと考えると、つながりの強弱はリアルと比べれば弱いかもしれませんが、世界中の人々とつながることができる可能性があるのです。

社会学には“弱いつながりの強さ理論”という理論があり、友人や仲間などの強固なつながりではなく、知り合いの知り合いなどの弱いつながりによってもたらされる情報やアイデアの価値の大切さを示唆しています。

日本ではこの“弱いつながり”の構築に消極的な傾向があるそうで、これからの国際社会に対応していくためにはこの“弱いつながり”の価値の向上が重要と言われていました。（ちなみに今では4.7人を介せば世界中すべての人とつながるというデータも出ています）

弱いつながりの強さ理論とは？

家族や親友、職場の仲間といった社会的に強いつながりを持つ人々は、生活環境やライフスタイル、価値観などが似通っているため、自分と同じ情報を持つことが多く、また、関係が緊密であるが故に外部と遮断されがちで、新規の情報が入りにくいのに対して、友達の友達やちょっとした知り合いなど、社会的なつながりが弱い人々であれば、自分とは違ったライフスタイルや価値観などを持つため、思いもよらない情報を与えてくれるので、新しく価値の高い情報をもたらしてくれる可能性が高いという、アメリカの社会学者マーク・グラノヴェッターが1973年に発表した学説。



では“オンライン”を活用して“弱いつながり”を作ることによって市民公益活動に一体どんな効果が生み出せるのでしょうか？

一つは今まで情報を届けることのできなかった層への活動の周知が大きいでしょ。Facebook や twitter、youtube などのソーシャルネットワークサービスを介しての情報発信や動画の配信などを行うことで、チラシやリーフレット配布、HP 等での情報掲示で補完しきれなかった層への情報発信が可能になります。もう一つは、団体の仲間同士でのコミュニケーションの取りやすさの向上です。Zoom や LINE といったアプリケーションを使った「ウェブ会議」をすることで移動時間や場所を気にすることなく、ミーティングや情報共有が可能になります。これにより会議を開くための場所取りや移動時間も含めての時間調整などが簡素化され、“オンライン”を上手に使うことで今まで以上にコミュニケーションを取りやすくなる可能性が高まっています。もちろん“オンライン”故の弊害としては、電波などの環境によって接続が影響を受けたり、相手の発言を表情や身振りで感じるのが難しいため、言葉のニュアンスの微妙な差異を受け取りづらいことなどが起こりえます。

とはいえ、メリットやデメリットがあるのはリアルな場でも同様です。

コロナの影響ゆえに致し方なく“オンライン”を使うと思うと気が重いですが、新しい人たちを巻き込んでいくための戦略ととらえて上手く活用していけば新しい可能性が見えてくるかもしれません。



プロジェクトマネージャー
影山 貴大

ウェブ会議とは？

インターネットに接続されたパソコンやスマートフォン、タブレットを利用し複数人で会議を行うことです。オンライン会議とも呼びます。インターネットに接続していれば、場所を選ばずいつでもどこでも会議を行えます。ウェブ会議は、端末（パソコン、スマートフォン）とウェブ会議システムのサービスを組み合わせて行います。ウェブ会議システムのサービスは様々な会社が提供しており、使用する皆さんの都合に合うものを利用します。



メリット
交通費と移動時間が削減できる
低コストで運用できる
意思決定のスピードが上がる

デメリット
通信状況に左右される
大人数の会議には向いていない
表情や雰囲気を読み取りにくい

ウェブ会議システム選びの注意点

☆安定した接続ができるかどうか

映像や音声途切れ途切れになるようなことがあると、伝えたはずの情報が伝わらず、重大なミスにもつながりかねません。

☆誰でも簡単に使えるかどうか

多機能なものほど使い方が難しいケースが多く、せっかく導入しても使われないことがあります。

☆セキュリティ対策が万全かどうか

インターネット環境を通じた会議であるため、セキュリティ対策が万全でないと、情報漏れの危険性があります。

地域づくりコーディネーターとは

地域づくりコーディネーターは、市民、自治会、市民公益活動団体、企業、市など、立場の異なる人・団体間のつなぎ役として活動します。役割・活動は様々ですが、一例をご紹介します。

① これからはじめたい・すでに行われている市民活動を応援します。

団体を立ち上げたい、立ち上げたけれども組織運営がうまくいかない、活動がマンネリ化している、打合せ場所を探している、後継者を育てたいなど、悩みを抱える人達、組織をサポートします。

⇒抱えている問題点の整理、アドバイス、ヒントになりそうな事例等の紹介など。

② 会議・打合せ時の進め方の提案、進行などをお手伝いします。

地域行事を活発にしたい、参加者を増やしたい時など、企画を考える会議・打合せの進行などを、お手伝いします。

⇒様々な人が気軽に意見を言いやすい会議の進め方の提案、進行役としてのサポートや、さまざまな年代の人が関われる企画の提案など。

③ 様々な人達や組織と一緒に取り組む際のつなぎ役となります。

イベントを一緒に行いたい、このような組織を探している、同じ地域課題の解決を目指している組織とタッグを組みたい時など、人と人、団体と団体をつなげます。

⇒悩み事・相談事に応じて適切な人や団体を紹介したり、つながった人同士や団体同士がより良い事業を展開できるよう、アドバイスをするなど。

④ 人脈の拡大やスキル、情報の維持・向上、他の地域づくりコーディネーターの育成に努めます。

人脈の拡大や、「かまがや地域づくりコーディネーター養成講座」等で得たスキルの維持・向上に加え、同講座に参加し、受講者にアドバイスをするなど、他の地域づくりコーディネーターの育成に努めます。

鎌ケ谷市認定「地域づくりコーディネーター」

名 前	連 絡 先	名 前	連 絡 先
伊藤 直子	047-442-3100 jimoto1705@yahoo.co.jp	甲斐 貴子	080-4200-4780 0930kai@gmail.com
大石 果菜	kohishi.09@gmail.com	石垣 裕子	090-1775-0567 pon@sakura.email.ne.jp
利重 和彦	090-6541-3592 Kazuhiko.toshishige@gmail.com	舟田 尚康	090-2407-6605 naoyasu.funada@gmail.com

地域づくりコーディネーターへの相談を希望される方は、市民活動推進課（TEL：047-445-1274）または、地域づくりコーディネーターまでご連絡ください。

ご協力 ありがとうございました

市内で活動されている市民公益活動団体の皆さまには、3月に行いました「令和2年度鎌ケ谷市市民公益活動団体実態調査」にご協力をいただき、ありがとうございました。

おかげさまで、60%を超えるご回答を頂き、貴重なデータを得ることができました。このデータは、現在策定中の次期「市民との協働戦略プラン」の基礎資料として活用させていただきます。

